

未染スライド(FFPE)の提出方法

検体量の目安

- 一般に 1 有核細胞から得られる DNA 収量は 6 pg 程度と見積もられる。
(ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程参照)
- 仮に 10 ng の DNA を得る場合には約 2,000 細胞からの抽出が必要とされている。
(ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程参照)
- 2,000 個の細胞を得るには、組織の面積が 60 ~ 100 mm² 程度必要。(厚さ 4 ~ 5 μm)
- FFPE 検体を使用する場合、必要枚数(切片厚が 4 ~ 5 μm の未染色標本)は以下が目安となる。

検体の種類	枚数	組織切片の面積	直径の目安
手術検体	2 ~ 5 枚	60 ~ 100 mm ² 程度	8 mm × 8 mm 程度
生検検体	5 ~ 10 枚	4 ~ 60 mm ² 程度	2 mm × 2 mm 以上
僅少な生検検体	15 ~ 20 枚	4 mm ² 以下	2 mm × 2 mm



※極端に小さい検体(1 mm² 以下)や切片中の有核細胞数が少ない検体は必要な核酸量が得られない場合もある。

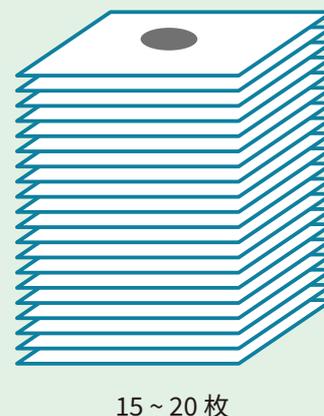
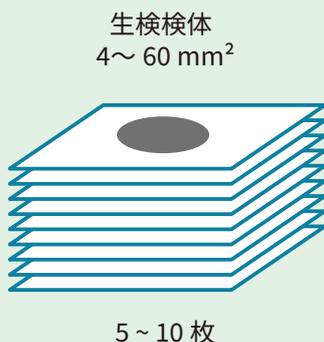
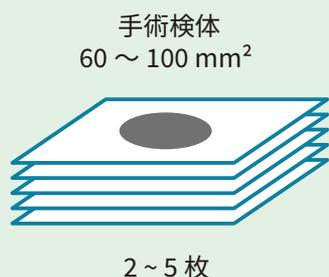
固定方法

- ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程に則り、適切な処理を実施する。
- 採取した組織は速やかに固定を行うこと。
※手術検体は、採取後すぐに冷蔵庫等で適切な検体管理を行うこと。
- 10% 中性緩衝ホルマリン溶液で 6 ~ 48 時間の固定を行う。
- FFPE 試料について過固定等による核酸の品質低下が懸念される場合、核酸品質の確認を行うこと。

検体提出の目安

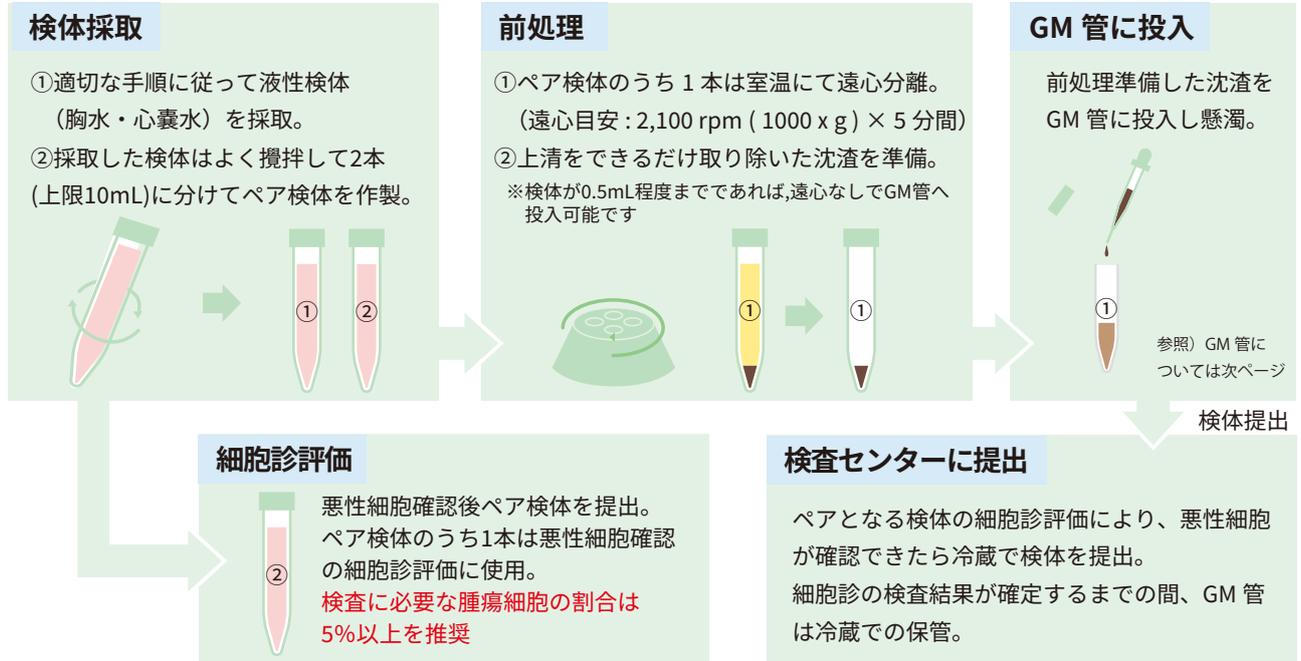
切片厚：4 ~ 5 μm 腫瘍含有率 5% 以上推奨

僅少な生検検体
4 mm² 以下
(2 mm × 2 mm 以下)



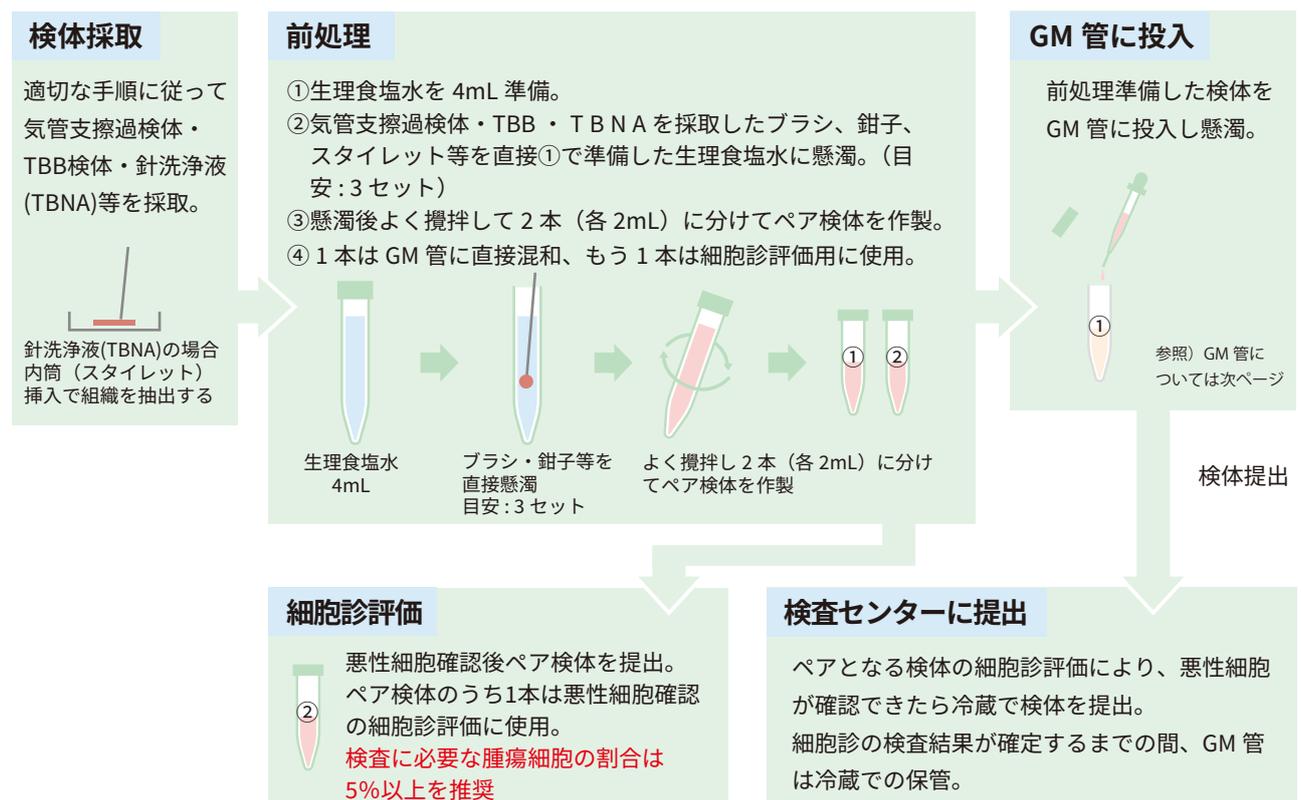
細胞診検体提出方法 液性検体 (胸水・心嚢水等) の場合

- ・細胞診評価用と提出用のペア検体を各2本準備 (上限10mL)
- ・上限10mL (目安) の胸水を遠心分離後、沈渣にしてGM管に投入し懸濁
- ・必ず細胞診評価により悪性細胞を確認し、確認できたペア検体を冷蔵にて提出
- ・可能な限り速やかに処理を実施してください。処理中氷上キープも有効です



細胞診検体提出方法 気管支擦過(TBB)・針洗浄液(TBNA)等の場合

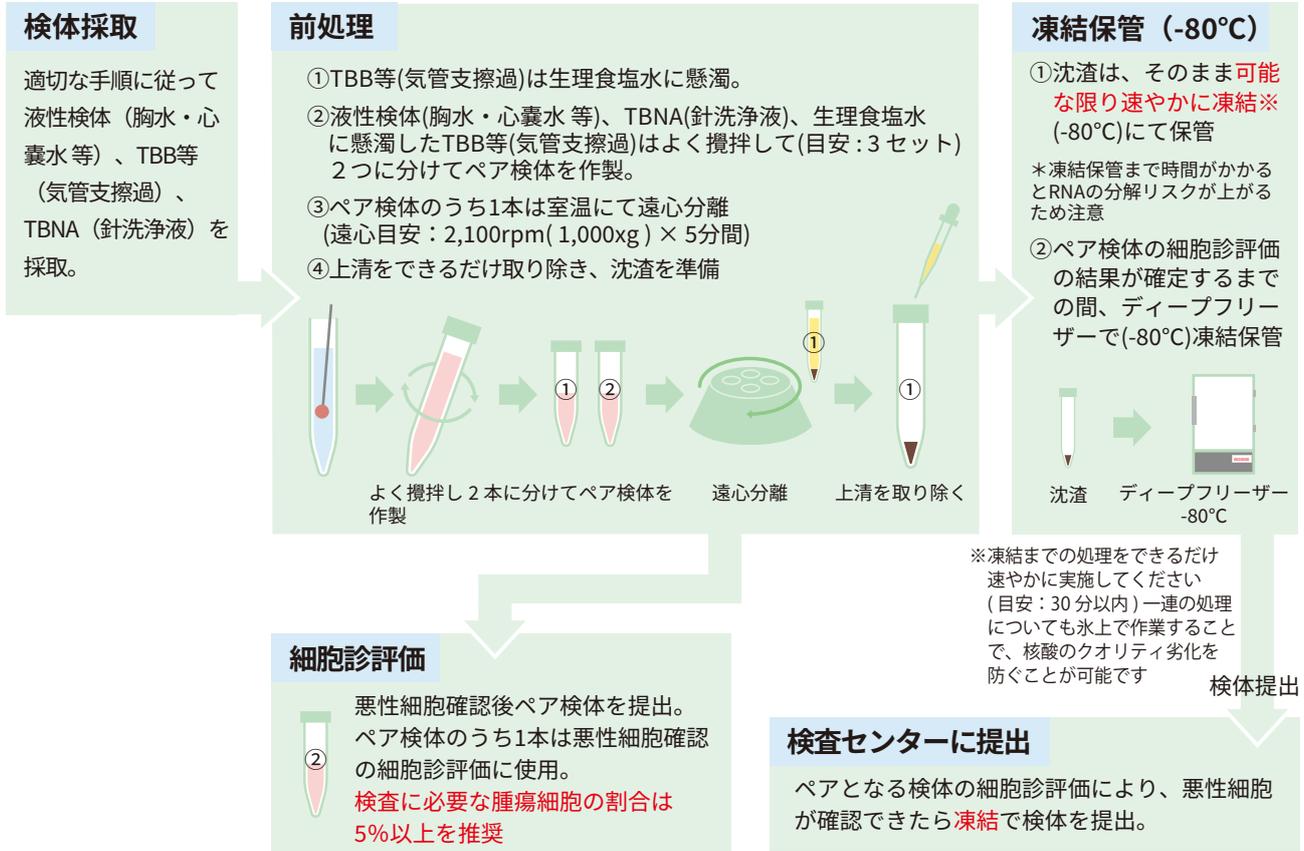
- ・細胞診評価用と提出用のペア検体を各2本準備 (各2mL)
- ・必ず細胞診評価により悪性細胞を確認し、確認できたペア検体を冷蔵にて提出
- ・可能な限り速やかに処理を実施してください。処理中氷上キープも有効です



上記手順は弊社の基準に基づいております。

細胞診検体提出方法 細胞診沈渣の場合

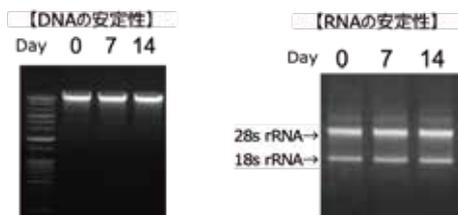
- ・細胞診評価用と提出用のペア検体を各2本準備
- ・必ず細胞診評価により悪性細胞を確認し、確認できたペア検体を凍結にて提出
- ・可能な限り凍結まで速やかに実施してください。凍結までの処理中、氷上キープも有効です



上記手順は弊社の基準に基づいております。

参照)GM 管（核酸安定化剤入り検体容器）

GM 管はジーンメトリックス社が開発した核酸安定化剤入りの容器で組織検体内の核酸を長期に渡り安定的に保存する溶液管です。核酸品質を維持し、検査の効率化と精度の向上のために開発されました。



マウス肺組織：4℃で14日間、質の高いDNA, RNAの保存可能

大阪医科薬科大学病態生化学研究室 藤森功教授、前原都有子助教 ご提供データ

仕様

- チューブ材質：ポリプロピレン (PP)
- スクリューキャップ：高密度ポリエチレン (HDPE)
- 容器サイズ：5.0 mL 直径 17mm
- 耐用温度：-86°C ~ 100°C
- 耐遠心力：25000 xg
- 検体採取後 保管・輸送温度：冷蔵 (4°C)
- 使用期限：1年 (常温)
- 検体保存期間：14日以内 (冷蔵 4°C)